

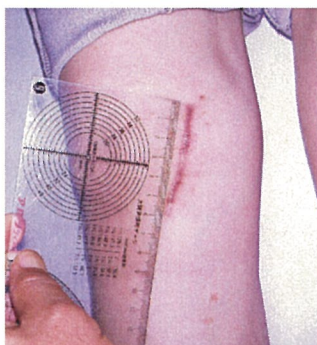
変形性膝関節症では  
どのような治療を  
行いますか？

高齢社会を背景に、年々増加傾向にある変形性膝関節症。女性に多く、患者の90%を占めている。原因は主に加齢によるものだが、肥満や若いときの負担やケガ、遺伝的要因もある。膝関節の軟骨や半月板がすり減って、骨まで損傷をきたすというもので、悪化すると股関節や腰など全身にも影響を及ぼす。

この変形性膝関節症の治療において、全国に先駆けてMIS（最小侵襲手術）手法による人工膝関節置換術を導入したのが桑園整形外科だ。東裕隆院長は、膝関節疾患のスペシャリストとして知られ、MISによる人工膝関節置換術では全国でも屈指の実績を誇り、年間約120例のうち95%をMISで行っている。また同院は、全国に2カ所ある人工膝関節研修施設の1つにも指定されている。

MISとは、手術器具類の改

## MIS（最小侵襲手術）による人工膝関節置換術で、早期社会復帰も可能に



MISによって従来よりも約1/3の傷口で治療が可能となった。最小だと5cmの切開で可能となる



MISによる術後の膝人工関節のレントゲン図。患者は全道のみならず、本州や海外からも訪れる

良などによって、従来の人工膝関節置換術よりも肉体的・精神的な負担が軽減され、傷跡は目立たず、術後の回復も早く整容面でも優れた手法だ。ただし、小さな切開での手術だけに、医師のスキルが求められるため、導入している整形外科は数少ない。そのなかでも同院の東院長は、膝蓋骨の側面から9センチ以内の切開で手術を可能にし、最小で5センチの切開による手術実

績も持つ。手術時間も短縮化を実現し、入院期間は従来の約半分で社会復帰を可能にしている。「ただし、あくまでも手術は生活に支障をきたす場合などの最終手段です。基本的には保存療法が最優先です。筋トレ指導、装具を使った治療や湿布、ヒアルロン酸の関節内注射は非常に効果的です」と、東院長は話す。膝の痛みに悩んでいる人にとって、安心して頼れる存在だ。

### 人工膝関節置換術

#### 院長 東 裕隆

92年北海道大学医学部卒業。同年市立札幌病院救急部勤務、93年北大医学部整形外科医局入局、98年北大大学院博士課程入学、2000年カルガリー大学（カナダ）留学、03年博士号取得、北大大学院博士課程卒業。同年市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年桑園整形外科開院。日本整形外科学会認定整形外科専門医。日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医。日本整形外科学会認定スポーツ医。日本整形外科学会認定リウマチ医。日本体育協会認定スポーツ医。日本運動器リハビリテーション認定医。全日本スキー連盟スポーツ医科学委員。身体障害者認定医。医学博士

#### 桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目28-30

電話：011・633・3636

<http://www.dr-azuma.net/>

●診療科目 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科・麻酔科

●診療時間 平日 9:00～12:00 14:00～18:00  
土曜 9:00～12:00

●休診日 日曜、祝日

※水曜午前は出張医師による診察



東院長によるMISは全国的にも有名で、同院は数少ない研修施設として指定を受けている